

つばさ

～男女が支えあい、いきいきと暮らせるまちをめざして～



まちを元気にする男女(なかま)たち
川西 加恵(かわにし かえ)さんにインタビュー



三重県内男女共同参画連携映画祭 2012
「おまえ うまそうだな」
2012年6月30日開催しました!!

津市男女共同参画フォーラム わあむ津
2012年12月8日(土) 10時～
津リージョンプラザで開催します!!

テーマ

自分の人生は 自分で切りひらく

講演(13時～)

戸田 奈津子 さん
(映画字幕翻訳の第一人者)
「字幕の中に人生
女(ひと)と男(ひと)、ともに豊かに生きる」



映画(14時50分～)

マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙

ワークショップや展示もあり
ますので、ぜひお越しください。



©2011 Pathe Productions Limited,
Channel Four Television Corporation
and The British Film Institute.

講演と映画に参加される場合は、
講演と映画がセットになった
整理券が必要(先着600人)

各国における男女格差を測る、ジェンダー・
ギャップ指数(Gender Gap Index:
GGI)というものがあります。

さて、日本は135カ国中、第何位?
(世界経済フォーラム 2011より)

① 10位くらい ② 50位くらい ③ 100位くらい

※答えは、情報紙の中に。

シロモチくんを見つけてね!



NO. 13

2012.10

- 【内容】 ◇男女共同参画に関する市民意識調査・事業所調査
◇まちを元気にする男女(なかま)たち
～第10回:川西 加恵(かわにし かえ)さん～
◇歴史を拓いた津の女性たち 第3回 佐々木 かよ
◇あむあむネットワーク 第4回
◇父親を楽しもう!!
◇津市ヘルスメイトおすすめ簡単レシピ紹介

◆ つばさ各号は、下記のホームページで閲覧できます。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/modules/dept1021/article.php?articleid=1>

『つばさ』

「誰もが自由な心で生きられる社会
を思い、男女共同参画社会の実現に
向かって飛躍していきたい」という
願いを込め、その力となる「翼=つば
さ」を象徴しています。

津市

津市の男女共同参画に関する最新の調査がまとまりました

津市では本年度、第2次男女共同参画基本計画を策定中です。これまでの計画で津市の男女共同参画がどのくらい進んだのか、また遅れている分野はないのかなどを知るために、2012年2月「男女共同参画に関する市民意識調査及び事業所調査」が行われました。前回の計画の前にも市民意識調査は実施されましたが、事業所調査は今回が初めてで、他市にもあまり例がなく画期的な調査といえます。ではそれぞれの結果はどうだったのでしょうか。

今号からシリーズで、結果とその特徴をお知らせしていきます。

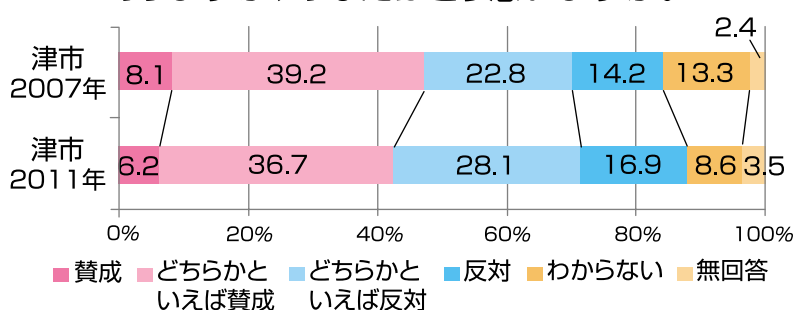
調査回収状況

調査	配布数	回収数	回収率	有効回答数
市民	3,000通	1,507通	50.20%	1,503通
事業所	816通	398通	48.80%	397通

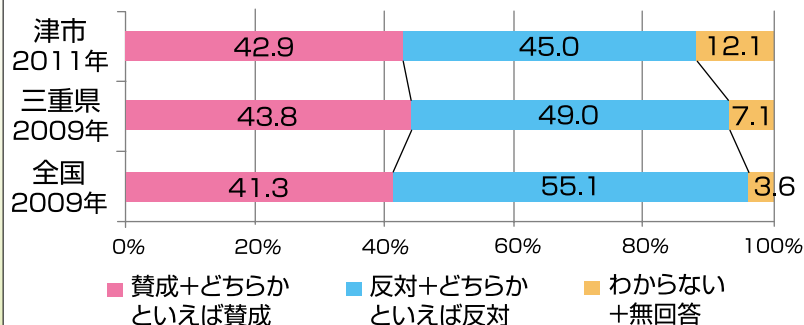
男女共同参画市民意識調査「性別役割分担意識」の変化

『男は仕事、女は家庭』という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。』の問いに対し、4年前の調査に比べ、「賛成」「どちらかといえば賛成」と考える人が減り、「反対」「どちらかといえば反対」と考える人が増えました。この結果は、津市の男女共同参画意識が進んだことを示しているといえます。

『男は仕事、女は家庭』という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。



性別役割分担意識に対する考え方の比較

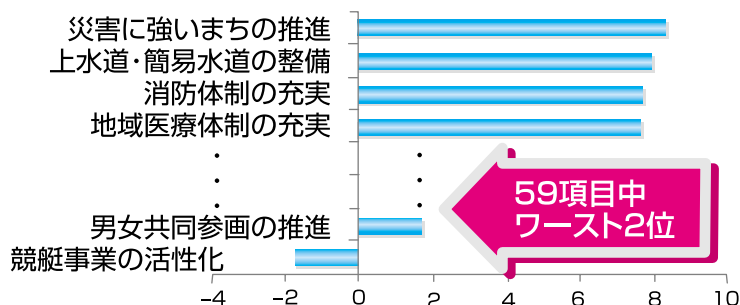


しかし全国の意識調査と比べると、性別役割分担について、津市の「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合はまだ半数を超えていません。また三重県の調査と比べてみても、津市の「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合は4.0ポイント低い状態です。

参考:「津市総合計画後期基本計画策定のための住民意識調査」より

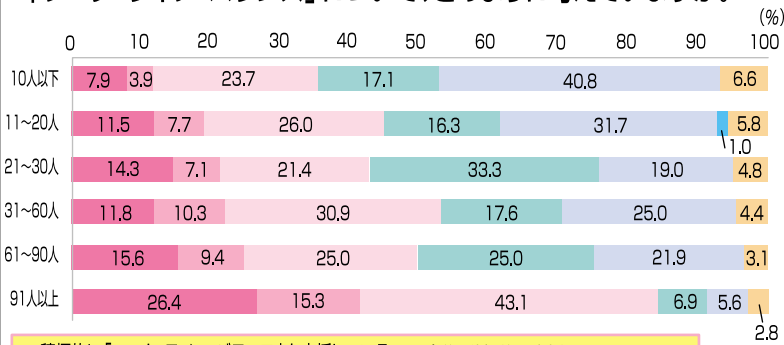
一方、同時期に行われた総合計画の住民意識調査では、津市の施策の中で「男女共同参画の推進」は重要度ワースト2位という結果となっています。男女共同参画も基本的人権に関わる問題であり、すべての生活に関わってくる大切な課題であるのに、まだ市民の皆さんの意識や生活の中に、十分根付いていないことがうかがえます。

次の施策はあなたの生活にとってどのくらい重要ですか。(津市全体) ※全59項目より抜粋



男女共同参画事業所調査「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について

「ワーク・ライフ・バランス」について、どのように考えていますか。



■ 積極的に「ワーク・ライフ・バランス」を支援している ■ 今後、積極的に支援していきたい

■ 法律で定められた範囲で支援している

■ 知らない

■ 無回答

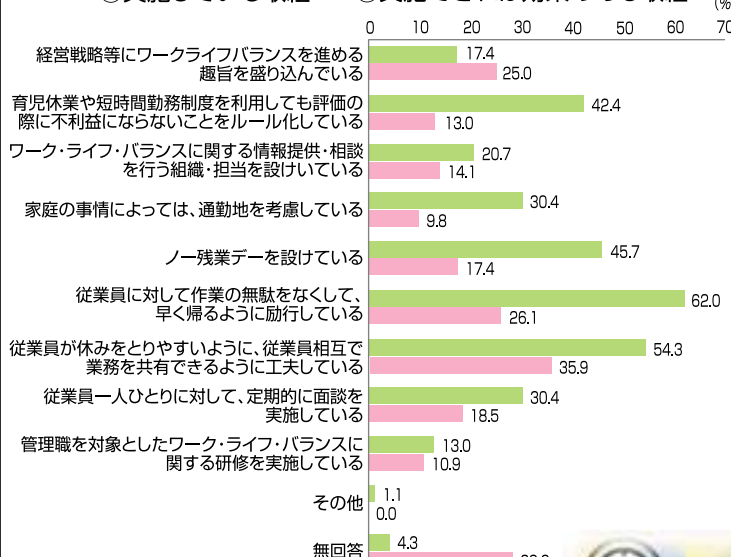
■ 知っているが余裕がない

■ ワーク・ライフ・バランスには反対

「どのようなことに取り組んでいるか？」聞いてみました。

ワーク・ライフ・バランスの取組

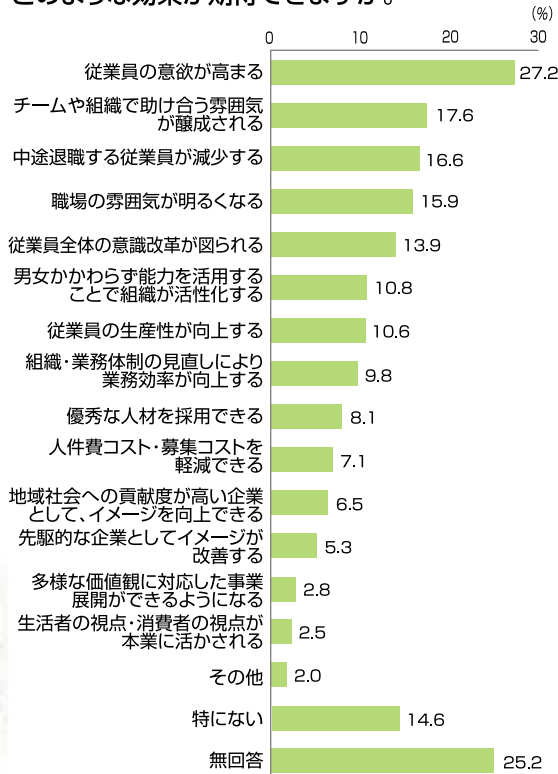
■ ①実施している取組 ■ ②実施できれば効果のある取組 (%)



ワーク・ライフ・バランスの取組で最も多かった回答は「作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」というものでした。他にも「休みをとりやすいように工夫する」や「ノー残業デーを設ける」など、労働時間短縮をもとにプライベートの時間を増やそうと取り組んでいることがわかります。

今回の調査からはワーク・ライフ・バランスを事業所が推進するに当たり、どのくらいの資本投下をしたかは読み取れません。しかし、将来的には積極的に資本を投下し、それに見合うリターンをワーク・ライフ・バランス推進に求めていくという考え方をする必要があるのでないでしょうか。

ワーク・ライフ・バランスを進めることにより、どのような効果が期待できますか。



最も回答が多かったのは、「従業員の意欲が高まる」というものでした。意欲や士気が高まるという期待は、大きな事業所ほど大きくなります。21～30人規模の事業所では「優秀な人材を採用できる」という回答が約2割に達し、ワーク・ライフ・バランスの取組を優秀な人材を採用するための一助としたいという思いが表れています。

ワーク・ライフ・バランスも企業経営活動の中で行うのだとしたら、「わが社にとってのワーク・ライフ・バランスの位置づけ」や「わが社がワーク・ライフ・バランスを進める理由」を今一度考えてみるのも良いかもしれません。

川西加恵さん

井村屋株式会社開発部

かわにし 加え

～キャリア形成は まわりのサポートを得て 自然体で～

男女共同参画において、女性研究者の活用は一つの大きな関心事です。様々なライフステージを通して、女性研究者たちが自分らしく活躍し続けるために、何をどうしていけばいいのでしょうか。

今回はそのような疑問をもって、高茶屋にある菓子・食品製造販売会社を訪ね、話題の「スポーツようかん」を開発した開発部の川西加恵さんにお話を伺いました。

川西さんの所属する開発部は総勢46名で、うち18名が女性。その中で川西さんは開発部隊の要としてご活躍されています。(インタビューには川西さんの上司である開発部菓子・食品開発チーム長の横山秀樹さんにも同席していただきました。)



2012年7月18日
川西さんの職場にて

研究開発者という職業を選択しようと思ったきっかけ、この会社に就職した理由を教えてください。

大学院の時、食物関係のことを学び、これを活かす仕事につきたいと思いました。母によると、もともと好奇心旺盛で、小さい頃からいろんなものを口に入れたり、触ったりしていたそうです。(笑)

この会社のことは、営業所が家の近くにあったことから馴染みもあり、また全国展開をしている会社なので、日本中の人に作った商品を届けることができると思い選択しました。

女性研究開発者として良かったことはありますか？

会社からいろんなお店を見に行かせてもらえます。よく甘いもののお店に市場調査に行きますが、女性だとカフェとか入りやすいです。男性だとちょっとおかしいかなって思われるかもしれませんが、女性なら「どれがお勧めですか？」なんてお店の人に聞きやすいですし。(チーム長の横山さんは、「男性は一人で甘味処には入りにくいしなあ。スーツを着た男性は、一消費者としてお店に入りづらいところは多々ありますよ。」と羨ましそうでした。)



右奥：横山秀樹さん(チーム長)
右手前：川西加恵さん

女性にとってこの会社は働きやすい職場ですか？

はい、そうですね。何より風通しが良く何でも言い合える、チームワークが良い職場です。まずはそこが、一番働きやすいところだと思っています。制度としては、短時間勤務制度もありますし、社員の子どもを預かってくれる社内託児所も整備されています。こういうものがあると、社員は安心だし、何よりきっちり働けるのでありがたいですね。

今後、仕事キャリアをどういう風に使っていきたいですか？
そのキャリア形成をするにあたって、この会社に望むことは何でしょうか？

キャリア・・・、ちょっと難しいなあ。開発の仕事は、いろんな方に喜んでいただける商品を出していくことなので、もっともっと喜んでいただける商品が出せるよう、スキルをつけていきたいですね。どこの会社も異動はありますよね。でも、できたらいろんなライフステージを経ても長く開発に携わっていけたらいいなと思っています。（チーム長の横山さん、「家庭を持っている女性開発者もいるんですよ。うちの部署は生活者目線も要るし、何より開発者には長く働いて欲しいですね。」）

川西さんのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の点数は何点ですか？（100点満点で）

うーん、80点くらいかな。チームワークのいい職場なので、効率的に仕事をする事ができていますから、もっと平日の夜を活用して、勉強したり、本を読んだり、走りに行ったりしたいですね。

川西さんは10年後、何をしていますでしょうか？

そうですね、家庭も持って、さらにスキルアップして新商品を開発していきたいですね。今の開発部での研究開発者という仕事を続けていけたら、と思っています。

これから研究開発者を目指したい女性たちにメッセージをいただけますか？

『研究開発』というと、男性の職場というイメージがありますが、そのイメージに陥らないで欲しいですね。必ずまわりからのサポートはあります。やりがいもありますし、ぜひ多くの女性に目指してほしいです。

マラソン、テニス、山登り、…
自由な時間はそのようなこともしています！



取材記者メモ

自然体、そんな言葉がぴったりの川西さんでした。
男女共同参画とか、ワーク・ライフ・バランスって、行政側から進めていくと、なんとなく難しいものになりがちですが、自分が自分らしく生きていきたいと思い、一生懸命になれば、自然と周囲のサポートもついてくるのかな、と思いました。
川西さん、ぜひ女性研究者のロールモデルになってくださいね。応援しています。

シリーズ☆「歴史を拓いた津の女性たち」☆第3回
子どもと女性の権利を守る 佐々木かよ
1909(明治42)年～2005(平成17)年



佐々木かよ略年表

明治	1909年 一志郡久居町大字幸町に誕生。榊原勘四郎・ひさの二女。
大正	1922年 三重県立高等女学校入学。 1926年 三重県立女子師範学校二部入学。
昭和	1927年 一志郡内の尋常高等小学校訓導として着任。 1930年 佐々木三郎と結婚。 1933年 長男を出産。 1940年 夫が病没。 1947年 久居町立久居中学校赴任。 1949年 三教組婦人部副部長選出。 1952年 第1回全国婦人教員研究協議会で研究発表。 1952年 三重県教育委員会社会教育主事に任命。婦人教育担当。 1955年 三重県教育委員会指導課指導主事(女性初)。 1958年 久居町立桃園小学校校長。任命制教育委員会後、県下女性初。 1966年 桃園小学校校長退職。梅村学園松阪女子中学校校長代理。 1973年 私立のべの幼稚園園長。 1978年 三重県婦人問題懇話会発足。座長代理。 1983年 三重県婦人問題推進協議会発足。会長に。 1986年 勲五等瑞宝章を受章。 1987年 三重県婦人問題協議会が「みえの第2次行動計画—アイリスプラン」策定。かよ顧問。
平成	1994年 岡田文化財団評議員に。 2005年 96歳にて逝去。

桃園小学校時代の佐々木かよ〔伊勢新聞1961年3月13日より〕(→)

佐々木かよは、1909(明治42)年一志郡久居町(現・津市)に生まれました。17歳で県立女子師範学校に入学した時、自転車に乗ることを勧められました。大半の同級生が「慎み深い女性は自転車に乗るものではない」と稽古するのをためらう中、かよは率先して自転車の練習をしました。教員になってからこれが役に立ち、差別や貧困で学校に来られない子どもたちの家に、足繁く家庭訪問をすることができたといえます。

戦後、教職員組合婦人部で仲間とともに産休補助教員獲得運動を展開します。その後、三重県教育委員会社会教育主事となり婦人教育担当となりました。当時、婦人参政権は得たものの選挙や政治に関心の薄かった数多くの女性たちの啓発に、県下をくまなく歩いたといえます。

三重県教育委員会指導課指導主事を経て、1958(昭和33)年49歳で久居町立桃園小学校校長となります。三重県教育委員会が任命制となってから三重県女性初の校長でした。赴任してしばらくはいろいろな苦勞もありましたが、それに耐え、あるいははねのけて、子どもや地域から信頼厚い校長となりました。また後輩の女性教員たちが管理職となれるよう、各教育委員会に働きかけも行ったといえます。

1966年に、8年間勤めた桃園小学校を退職。県内私学教育の向上に尽くした後、1978年三重県婦人問題懇話会が発足すると、かよはその座長代理となります。1975年の国際婦人年以降、三重県でも男女平等の機運が高まり、婦人問題解決への一歩が踏み出されたのです。続く三重県婦人問題推進協議会で、かよは会長となり、今日の県の男女共同参画の大きな礎を築くこととなりました。

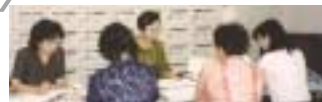
2005年11月フレンテみえフォーラムで、自らの歩みを語る佐々木かよ。亡くなる5日前のことでした。(→)



つながる津市の男女共同参画

あむあむ ネットワーク ④

1994年三重県女性センター（現三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」）主催「第1回女性フェスティバル」に参加した有志で結成し18年となりました。私たちは、日常生活にある男女の固定的役割分担意識や実態をとらえ、ジェンダーチェックリストを作成してきました。作成にあたっては、調査研究をし、その成果は、ジェンダー研究その1～その6に至っています。



国立女性教育会館（NVEC）や、日本まんなか共和国女性サミット、三重県男女共同参画センターなどでワークショップを開き、津市の男女共同参画フォーラム（わあむ津）では毎回展示参加をしています。4種類のジェンダーチェックリストは、三重県をはじめとし、県外からも使用を求められてきました。また、韓国国策女性研究機関からも照会があり、FAXを送ったことがありました。

ジェンダーチェックリスト

「日常生活編」

家族関係・家事・育児・介護ケア・仕事と家事・余暇・社会活動の6分野に注目し、意識と実態の比較ができます。

実際に「若者編」の一部で、 チェックしてみましょう。

10月～体育の日、芸術の秋～

- 男の子は、スポーツが好きなものだ。
- 女の子は、ピアノぐらいは弾けたほうがよい。



「若者編」

12カ月の年中行事
にちなんであれ、
解説しています。

「あなたらしさ・わたしらしさ編」

心理学的研究から意識
改革をめざします。

「子どもたち編」

生まれた時からの教育
を大切にしました。

12月～クリスマス、忘年会～

- プレゼントのリボンは、男性なら青や緑、女性ならピンクや赤にする。
- 忘年会などの場で女性が男性にお酌をしたり、食事を取り分けてあげたりするのは当然だ。



11月～勤労感謝の日、文化祭～

- 働くといっても、女性はパート程度でよい。
- 文化祭や学園祭などでクラスをまとめるのは男の子が向いている。

みえウィメンズ・プランは、毎日の身近なことに注目することで、意識が変わり、男女共同参画社会が実現することを願って行動しています。

父親を楽しもう!!



『しろくまちゃんのほっとけーき』 わかやま けん（こぐま社）

しろくまちゃんがホットケーキを作ります。

卵を割って牛乳入れて。

焼けていく様子が楽しい擬音で表現されています。

「しゅっ ペたん ふくふく」などなど。

完成したら、食べなくなってきました。

『うちとらいおん』

マレーク ベロニカ（福音館書店）

うちには弱虫なこどもで、友達も怖くて一人ぼっち。

でも、小さなライオンと体操したり、すもうをとったり、ライオンの力を借りて、強い子どもに成長していきます。子どもの成長がたくましい1冊です。

お父さん、絵本をお子さんと一緒に読んでみませんか？ 絵本は、身近で簡単に使えるコミュニケーションツールです。

お父さんの膝の上は、お子さんにとって絶対的な安全地帯です。是非、お子さんを膝の上に乘せて、絵本を楽しんでください。

『おこだでませんように』

作：くすのき しげのり

絵：石井 聖岳（小学館）

「ぼくはいつもおこられる。家でも学校でもおこられる。」本当は、褒められたいのに。男の子が、七夕の短冊に書いた願いは・・・。

子どもの気持ちに気がつき、あたたかい気持ちになる絵本です。



津市ヘルスメイトおすすめ簡単レシピ紹介



●チンゲン菜ときのこの中華いため●

材料(2人分)

★チンゲン菜	90 g
★生しいたけ	20 g
★しめじ	30 g
★舞茸	30 g
★人参	10 g
★ごま油	小さじ2
★合わせ調味料	鶏ガラスープの素 小さじ2/3
オイスターソース	大さじ1/2 水 40 ml
酒	大さじ1/2 片栗粉 小さじ1/2



作り方

- ① チンゲン菜は葉の部分は2cm幅、芯の部分は1.5×7cmくらいに切る。
生しいたけは石づきを取り、1cm幅くらいに切る。
しめじと舞茸は軸の下部分を切り落とし、小房に分ける。
人参は、1.5×4cmくらいの短冊切りにする。
- ② 合わせ調味料を合わせておく。
- ③ フライパンにごま油を入れて火にかけ、野菜を炒める。
合わせ調味料を入れ、全体にからめて火を止める。

●さつま芋のプリン●

材料(2人分)

★さつま芋(皮なし)	60 g
★砂糖	12 g
★牛乳	80 ml
★ゼラチン	2 g



作り方

- ① さつま芋を耐熱皿にのせラップをかけ、柔らかくなるまで電子レンジにかける。
- ② 分量内の牛乳を少し皿にとり、ゼラチンを入れ、ふやかしておく。
- ③ さつま芋・砂糖・牛乳をミキサーにかける。
鍋に移し、火にかけ、ゼラチンを加える。
温まってきたら火を止め、ゼラチンを溶かす。
- ④ 器に注ぎ、冷蔵庫で冷やす。

読者の窓 情報紙つばさ11号・12号の感想をいただきました。ー



フォーラムの話題が中心として書かれていたため、一見専門誌的な印象を持った。

自分にとってはパートナーとの分業化どころか、パートナーとの関係を築くことすらおぼろげにしか見えていないので、まだどこか遠いところの話に思えるのかもしれない。
(20代男性)

現在子育てをしている母親や父親にとって、役に立つフォーラムやワークショップの紹介のほか、将来親になるであろう若者に向けた情報も発信しており、老若男女に広く男女共同参画を認知してもらおうという意図がよく感じられました。

(20代女性)

様々な内容があり、読みごたえのある情報紙だと感じました。最後に載っている『津市ヘルスメイトおすすめ簡単レシピ紹介』は、毎回楽しみにしている方がいるのではないかと思います。

(20代女性)

石阪先生の記事は、とても身近に感じられました。男女共同参画には、世代間の認識の違いが大きいので、相互理解を進めることが改めて重要であると感じました。男女の役割にこだわることなく、子育てや家事に取り組む社会を目指していることが分かりました。

(20代女性)

これまで発行したつばさ各号は、男女共同参画室（本庁舎3階）にあります。

編集後記

津市防災会議委員が2名から8名に増員との新聞記事。女性参画のため国が法改正し、津市も意識的に女性を増員させた。そしてそれをきちんと伝えるマスコミ。少しずつ男女共同参画社会に向かっているのを実感します。(佐藤)

表紙の答え ③

2011年の報告によると、日本は、98位です。日本は、特に政治分野及び経済分野における男女の格差が大きいので、このような低い順位になっています。

ちなみに、1位はアイスランド、2位はノルウェー、3位はフィンランドとなっています。



初めて「つばさ」の編集に参加しました。男女共同参画を少しでも広めていけたら嬉しく思います。編集しつつ思い出していたのは父のこと。共働きだったこともあり、母と家事を分担し、父は洗濯、掃除を当たり前のようやっていた。

子育てについても、寝るときの読み聞かせ、お風呂、着替えなども。案外と先駆者だったのかしら、と思っています。(荒金)

今回より新しい編集員さんを迎え、より一層中身の濃い情報紙「つばさ」。また、簡単レシピも充実させて、皆さんが手に取っていただけるように頑張っています。是非目を通してください。(小林)